1．基本設計および施設検討

1.1　基本設計図（前回提示案より、作業道等を一部修正）

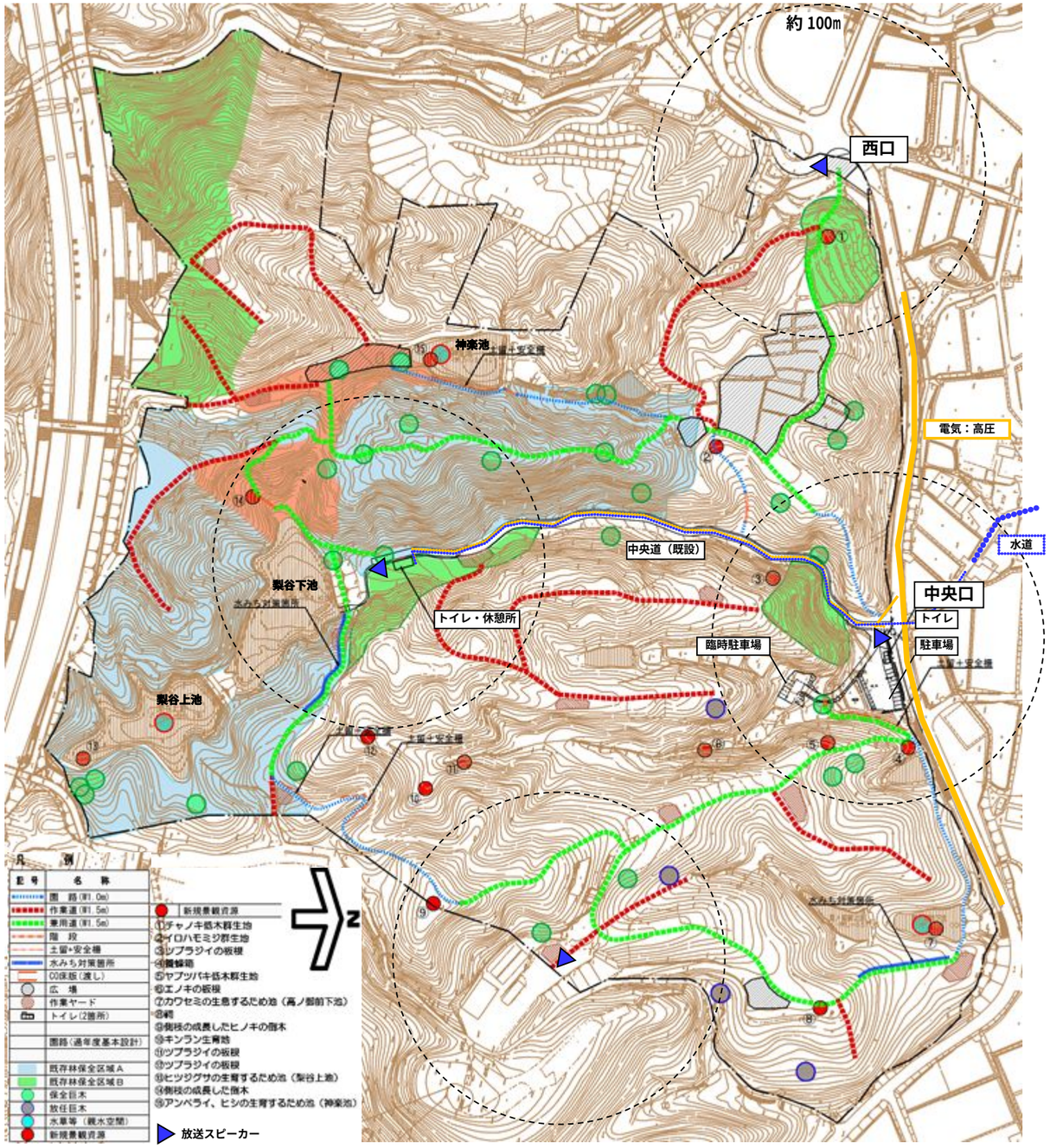


図　修正基本設計平面図

1.2　園路等

（H18 年度からの修正）

・地形的にルート確保が困難な区間について迂回や変更をし、周遊ルートを確保した。

・竹林伐採作業に必要な作業用ルート（一部園路との兼用道）を確保した。

（園路構成）

・園　路：人の通行を想定、幅員 1m 程度、急勾配区間は階段

・作業道：チッパー等の通行を想定、幅員 1.5m 程度、勾配は 25 度（チッパー登坂能力）以下

・兼用道：上記の園路と作業道の件用

（造成）

・基本的には、できるだけ園内で土量バランスを考慮する。

・切土勾配は、1:1 を基本とし、地形等でやむを得ない場合は 1:0.5 とする。

（中地区ほどの細やかな管理が困難であるため、勾配を緩やかにしておく）

・盛土勾配は、1:1.5 を基本とする。

（構造物等）

・階段や土留め等は、基本的に木製とする。

・池畔や高低差が大きく危険な箇所の転落防止柵は、高さ 1.1m を確保し擬木で対応する。

（広場等）

・園内の棚田跡に広場を配置し、木製のベンチやテーブル等を休憩用に設置する。適宜拡大

（休憩所）

・周遊ルートの中間点に近い梨谷下池手前に休憩所を設ける。

・暫定利用時には、公園づくりのための活動拠点として利用する（面積 60m2：郷の館と同程度）。

（トイレ）

・中央口および中央道奥梨谷下池手前の 2 か所とする。

・それぞれ男子（小２穴、大１穴）、女子（大２穴）、多目的（１穴）とする。

・中央道に電気と給水を敷設し、汲み取り式で対応する（泉佐野市下水への接続先が付近にない）

・水道は既設から中央口まで引込み、梨谷下池付近のトイレには、受水槽からポンプアップ（約 350m、高低差約 33m）で給水する。

（照明）

・夜間は閉園することから、中央口駐車場に 2 基程度設置する。

（放送設備）

・既存のパークセンターにある放送設備と連動し、東地区に放送できる設備を設ける。

・設置に必要な重機が進入可能な 4 か所でソーラー式の電力により 30W 程度のスピーカーを設置すると、80～100m 程度の範囲で聞こえ、園路ルートの概ねの範囲で放送が届くと想定される。

・回線方式は、インターネット方式を用いる場合は有線の設置、施工が必要であるのに対し、無線を用いると申請や電波利用料の維持管理が必要であるが、初期コストを大幅に抑えることができる。

（中央道舗装）

・電気と給水敷設時に再舗装する。併せて竹の根の進入を抑制する防根処置を行う。

２．園路実施設計

東地区の西側の当該園路実施設計箇所は、東地区のツアーや府民協働等の暫定利用を行うために必要不可欠な箇所について実施設計を行った。

園路は階段も含め幅員 1.0m程度、作業道はチッパーやキャリーなどが通行できる幅員 1.5m程度で、園路及び作業道は中地区のコラボレーション区域の園路と同様に、舗装や縁石はなく、できるだけ現状の樹木の伐採や地形改変を行わないよう配慮した園路線形とした。

なお、園路や作業道の配置や形状等については運営審議会で審議をしている。

さらに、当該実施設計箇所は来年度（平成 31 年度）工事を予定している。

2.1　園路の検討

（1）幅員

園内の通路として以下の３種を設定した。

園　路：W=1.0m、歩行（園内利用）者通行利用、地形等によっては 1.0m 未満でも適用

作業道：W=1.5m、園内の竹林伐採などの作業用チッパーの通行利用

兼用道：W=1.5m、園路と作業道を兼ねる利用

※中央道（既設）は約 W＝5m、As 舗装

（2）造成

園路を整備する際の造成の基本方針を以下に示す。

・既存道に十分な幅員がある区間は、路面の整地をして利用する

・既存道で幅員の狭い区間は、山側の切土、あるいは谷側の土留め柵と盛土により幅員を確保する

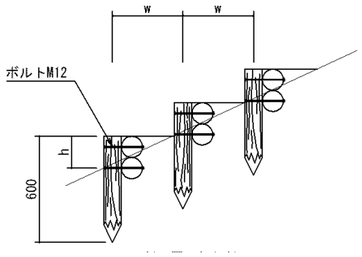
・既存道のない区間では、適宜造成を行い、園路幅員を確保する。

・幅員確保のために避けられない樹木等がある場合は、伐採伐根する。

（3）階段

現地形が急な区間については、階段を設置する。

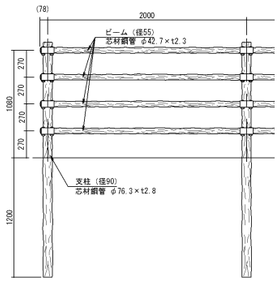
階段は、丸太階段とする。



（4）転落防止柵

急勾配で危険性が高い園路区間では、転落防止柵（H=1.1m）を整備する。

中地区でも整備されている擬木柵とする。



（5）伐採樹木

それぞれの利用形態に応じた園路を整備する際に、どうしても支障となる樹木については最低限の範囲で伐採する。

主な伐採樹木の写真を以下に示す。

できるだけ太い樹木を避けて園路線形を決定

竹の伐採は園路の線形を優先

園路上で、枯れている樹木の場合

どちらかを避けれる場合は、細い方を伐採

伐採設計数量

樹木周 C（cm）	本	備考
15～25 未満	4	枯木 2 本
25～40 未満	16	枯木 6 本、竹 5 本
40～60 未満	3	枯木 3 本

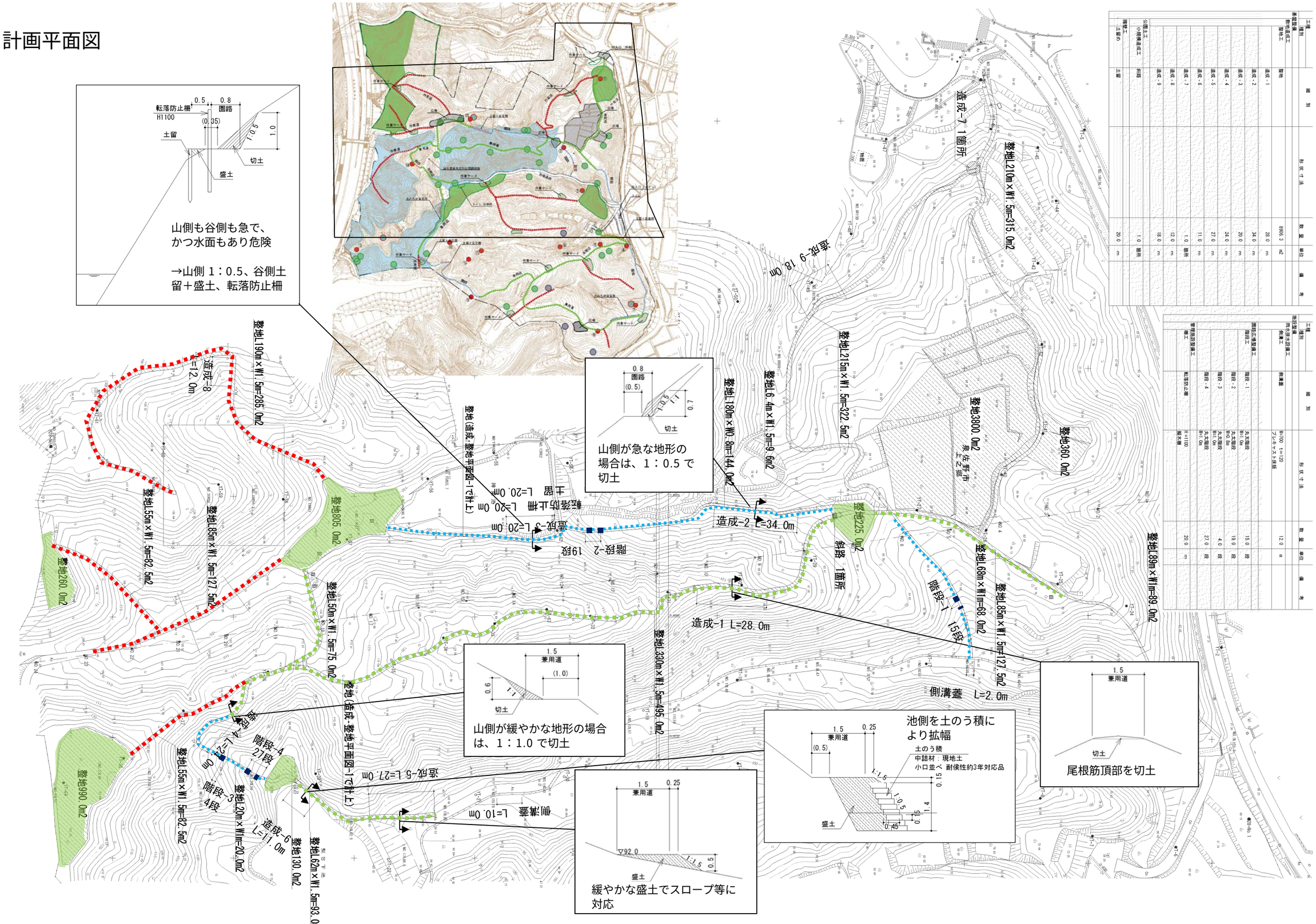
枯木や竹以外では、計 7 本を伐採。

伐採は、全て C=30cm 未満であり、

かつ大半が生育状況が悪い～少し悪い樹木である。

株立ち風の 7 本のうち、どうしても伐採が必要な
園路側の 3 本を伐採

計画平面図


山側も谷側も急で、
かつ水面もあり危険
→山側 1：0.5、谷側土留＋盛土、転落防止柵
山側が急な地形の場合は、1：0.5 で切土
山側が緩やかな地形の場合は、1：1.0 で切土
緩やかな盛土でスロープ等に対応
池側を土のうより拡幅
尾根筋頂部を切土
造成-7 1箇所
造成-9 18.0m
整地3800.0m2
整地360.0m2
整地225.0m2
整地805.0m2
整地260.0m2
整地990.0m2
造成-2 L=34.0m
造成-1 L=28.0m
造成-8 L=12.0m
造成-3 L=20.0m
造成-5 L=27.0m
造成-6 L=11.0m
側溝蓋 L=2.0m
側溝蓋 L=10.0m
階段-1 15段
階段-2 19段
階段-4 27段
階段-3 4段
整地330m×W1.5m=495.0m2
整地50m×W1.5m=75.0m2
整地85m×W1.5m=127.5m2
整地55m×W1.5m=82.5m2
整地20m×W1m=20.0m2
整地130.0m2
整地62m×W1.5m=93.0m2
整地68m×W1m=68.0m2
整地85m×W1.5m=127.5m2
整地89m×W1m=89.0m2
整地210m×W1.5m=315.0m2
整地215m×W1.5m=322.5m2
整地6.4m×W1.5m=9.6m2
整地180m×W0.8m=144.0m2
整地190m×W1.5m=285.0m2
整地55m×W1.5m=82.5m2
整地(造成・整地平面図-1で計上)
転落防止柵 L=20.0m
土留 L=20.0m
(1で計上)
佐野市
東上之宮

◆園路実施設計における伐採木について

番号：11　C=20cm　生育状況：少し悪い

番号：13　C=23cm　生育状況：悪い

（番号：15　C＝29cm　枯、2 本立）

番号：18　７本立のうち、C=25cm 程度３本　生育状況：普通１本、枯れ枝あり２本
（番号：17　枯　C＝29cm）

番号：18

番号：21　C=27cm　生育状況：少し悪い

番号：37　２本立　C=35cm　生育状況：少し悪い

◆造成部分の状況

造成 2

造成 3

造成 5